



世界に誇れる 取り組みを

● 常盤 達雄

国労東日本本部 教宣部長



昨年から教宣部長をさせていただいている常盤です。一昨年に父が他界し、今年4月に母が追うように他界しました。折しも新型コロナ真っ最中で、病院にも見舞いに行けない、葬儀にも来れない、葬祭場（焼き場）からは10人以上来るなどと言われ。平常時がいかにか幸せかを思い知らされました。

両親とも那須塩原市の生まれで、母の実家が黒磯駅前にあったため、私は夏休みにはよく黒磯駅で、抜けていく特急や、構内を行き来する機関車を眺めていました。父の兄2人は戦争に行き、1人は南方で戦死し、実家近くに大きな慰霊碑が今でもあります。もう一人は復員後国鉄の新鶴見操車場で働きました。母の実家には、戦争中に陸軍那須原飛行場（現在の那須塩原市埼玉（さきたま）にあった）に駐屯していた特攻隊の隊長（少尉）を寄宿舎代わりに泊めていたと聞いています。

こうした事を聞いていたこともあり、東京地裁に提訴（2016年4月）した安保法制違憲訴訟に国労も参加していくとなった際に、私も原告団の一人として登録しました。訴訟自体は、これから私たちに降りかかってくる（かもしれない）テロの脅威や戦争に駆り出される心理的苦痛などを訴え、国家賠償を求めるという形を取りつつ、安保法制の違憲性を訴える難しい訴訟です。そうした中で、一昨年5月には、第7回原告本人尋

問の3人のうちの一人になりました。

一人が元自衛官、一人が東大名誉教授という大物に挟まれて、「鉄道員・常盤達雄」としての参加になりました。（肩身が狭かった）それでも、伯父が戦死している事、自宅近所に米軍基地（大和田通信隊）がある事、米軍のジェット燃料輸送の貨物列車が運行されている事など、そして最後に、自分の兄弟・子供・友人・恋人が戦争に行かされて戦死などという事が起こる世の中になってほしくない事も裁判所に強く訴えてきました。

日本は唯一の被爆国としてまずは核兵器廃絶に、そして原発事故を起こした国として、原発廃止の先頭に立ってほしいと思います。しかし、核保有国主導の核拡散防止条約には参加しても、核兵器禁止条約には不参加です。原発の稼働でも、老朽化したものの廃炉は決まっていますが、使えるものは使っていく方針を崩していません。今年の東京オリンピックは延期になりましたが、予定では8月9日に盛大な閉会式があったはずで、長崎の原爆の日と同日のこの日、五輪が実施されていれば、日本は世界に平和を誇れるアピールができたのでしょうか。そして、もし来年開催できれば、閉会式は8月8日らしい。広島と長崎の原爆の日に挟まれたこの日、世界に誇れる東京そして日本の取り組みを世界に発信してほしいと思うのです。